



2019年3月期 通期決算短信 補足説明資料

株式会社オプティム

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略等はいずれも作成時点で入手可能な情報を基にした予測であり、これらは経済環境、競合状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績および戦略は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。また、本資料に記載されているマーケット情報などに関わる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。



- ・ 2019年3月期（第19期）決算ハイライト
- ・ 2019年3月期（第19期）活動実績
- ・ 2020年3月期（第20期）業績予想



2019年3月期（第19期）決算ハイライト

創業来19期連続となる過去最高売上高を達成 2019年3月期の当初売上予測 50.6億から上振れ、54.68億で着地

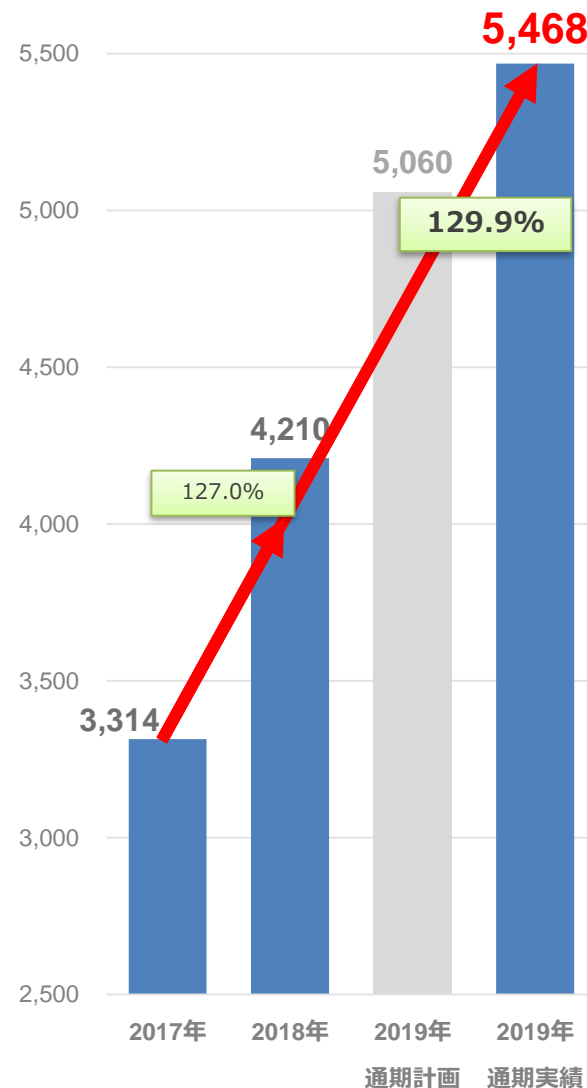
売上の8割以上を占めるストック型のライセンス売上については、既存サービスを中心にライセンス数を順調に積み上げることが出来たため、前年比120%強の成長となっております。

また、フロー型のカスタマイズ売上については、新サービスを中心に受注が好調であり、前年比190%以上の実績となっております。

その結果、全体売上においても前年比129.9%での着地となっております。

前年比
(単位：百万円)

売上実績の推移



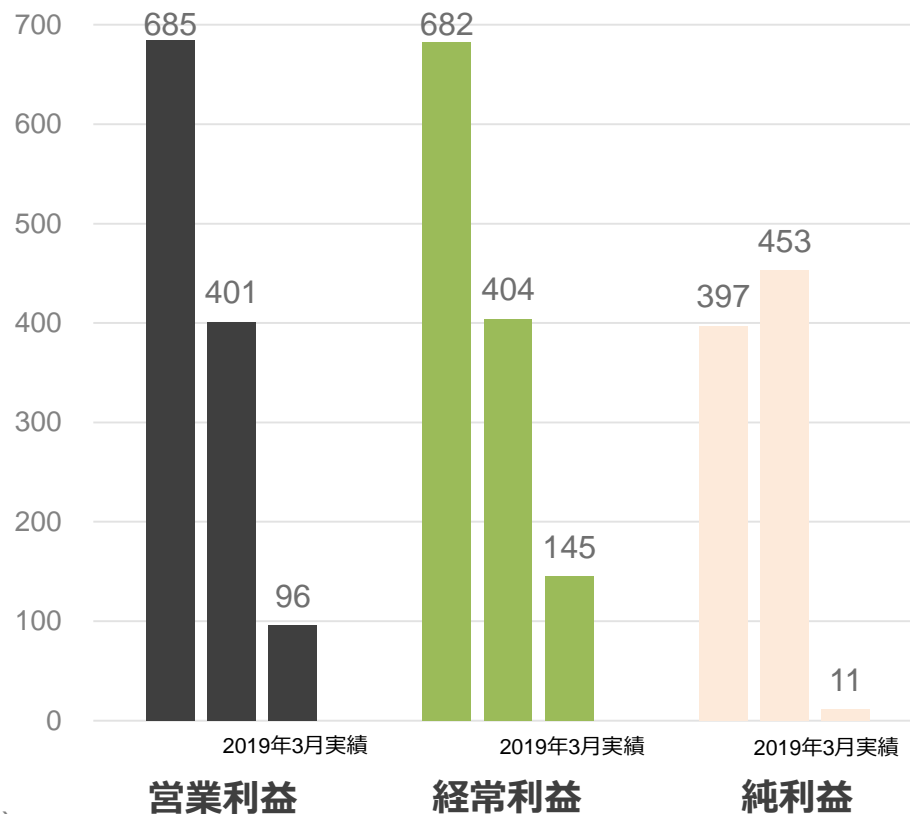
第4次産業革命の中心的企業になるべく AI・IoT・Robotics分野への 積極的投資継続中 ～ 利益は通期計画範囲通り ～

当期も前期に引き続き、戦略的に研究開発に積極投資を実施した一年でした。実績としては、20億円超（前年比で約130%・金額ベースで約4.5億円増）の研究開発投資となっております。

その結果、営業利益は、96百万円、経常利益は、145百万円、純利益は、11百万円となっております。

（単位：百万円）

3カ年利益実績推移





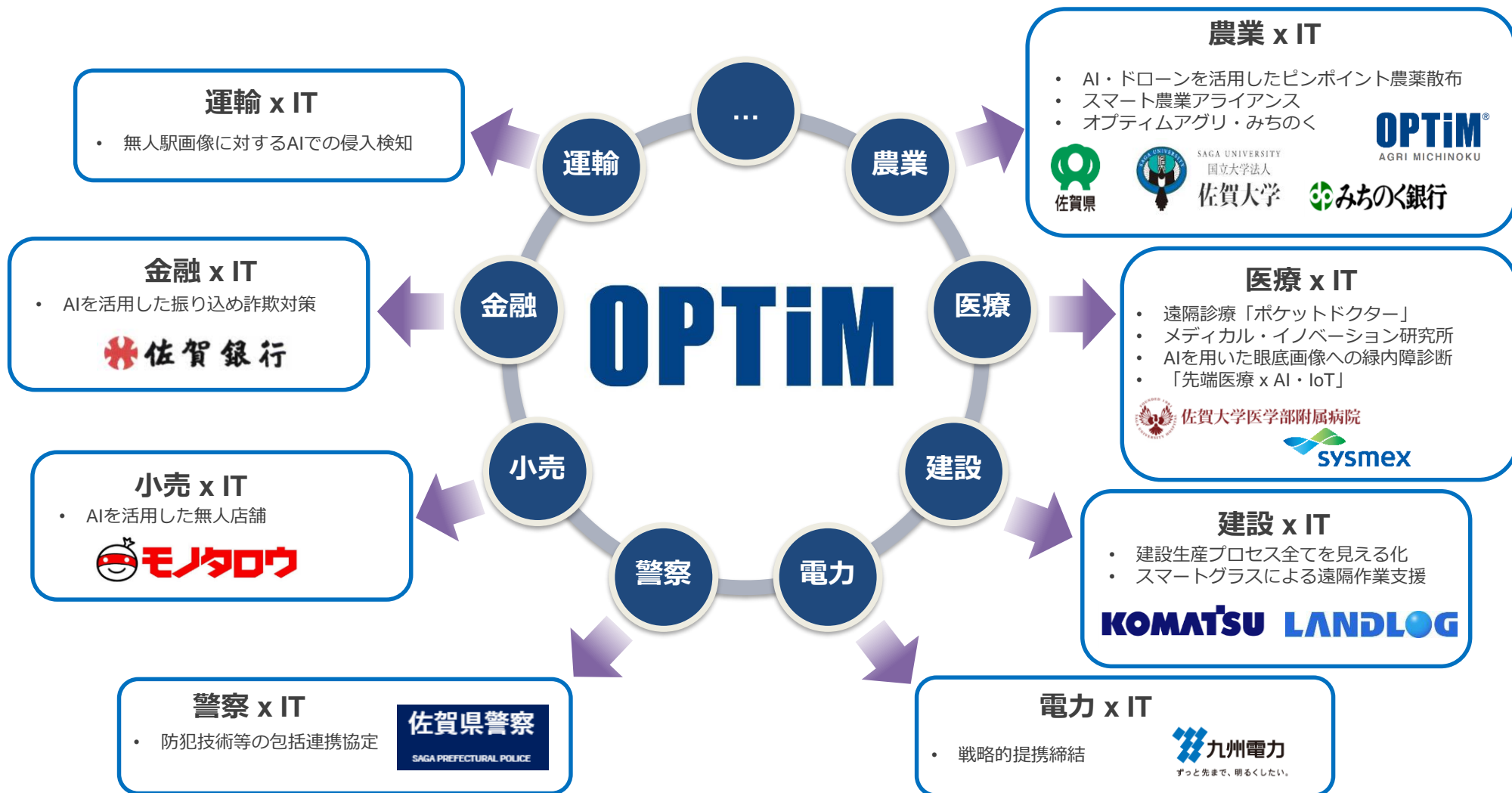
2019年3月期（第19期）活動実績



新サービス

「OPTiM Cloud IoT OS」
～ 「〇〇×IT」 ～

AI・IoT・Robotics等の最先端技術を、新たな価値の創造や課題解決を実現するため、
様々な業界や産業と融合させた事業を幅広く展開中





これまでの〇〇 × ITの具体的な取り組み

〇〇(業界)	発表時期	内容	提携先
農業	2015/8	IT農業における三者連携協定 を締結：「楽しく、かつこよく、稼げる農業」の実現を佐賀から行うべく、IT農業における世界No.1を目指した取り組みを開始	佐賀大学農学部、佐賀県生産振興部
	2017/12	世界初、AI・IoT・ドローンを活用した ピンポイント農薬散布テクノロジーによる大豆の栽培に成功 ：農薬使用量1/10以下、残留農薬不検出、収量品質同等を実現	
	2017/12	生産者を中心とした、「 スマート農業アライアンス 」を設立：ドローンやAIなどのスマート農業ソリューションの無償提供、収穫物の全量買取で生産者と収益分配	
	2018/7	AI・IoT・ドローンを活用した、未来志向の生産者たちが取り組む、 オプティム・スマート農業アライアンス成果発表会 を実施：18品目18都道府県（全国の1/3の都道府県が参加）にてスマート農業を推進中	
	2018/7	日本初の ドローンを活用した作付確認の取り組み を実施：固定翼ドローン「OPTiM Hawk」と圃場管理サービス「Agri Field Manager」を用いて山地を除く町内全域、世界最大約8,500ヘクタールをスキャンし麦の作付確認の実証実験を実施	佐賀県杵島郡白石町
	2018/7	農林水産・流通加工・食品産業向けAI・IoT・Robotプラットフォーム「 AGRI EARTH 」を発表：農業ビッグデータの活用を推進。WAGRIとも連携しAI・IoTによる価値創造を目指す	農業データ連携基盤協議会
	2018/8	ドローンパイロットシェアリングサービス「 DRONE CONNECT 」β版を開始	
	2018/10	ピンポイント農薬散布・施肥テクノロジー に関する 基本特許保有について発表	
	2018/11	AIやドローンを使い、 農薬使用量を抑えた あんしん・安全なお米「 スマート米 」の販売を開始	
	2018/11	九州経済連合会、福岡県、大分県と「 スマート農業促進コンソーシアム 」を設立	九州経済連合会、福岡県、大分県
	2019/1	みちのく銀行と日本初となるスマート農業地域商社「 株式会社オプティムアグリ・みちのく 」を設立	みちのく銀行
	2019/2	ピンポイント農薬散布テクノロジーにて生産された「 スマート米 」、第三者検査機関により 残留農薬「不検出」 との検査結果を取得	
	2019/2	ピンポイント農薬散布テクノロジーにて生産された残留農薬不検出「 スマート玄米 」発売開始	
	2019/2	未来志向の生産者たちと取り組む「 スマート農業アライアンス 」、 参加団体数が1,000団体を突破	



これまでの〇〇 × ITの具体的な取り組み

〇〇(業界)	発表時期	内容	提携先
医療	2016/2	国内初となるスマホ・タブレットを用いた遠隔診療サービス「 ポケットドクター 」を発表	MRT
	2016/12	IoT・AIを活用した未来型医療の共同研究・実証を行う「 メディカル・イノベーション研究所 」を設立	佐賀大学医学部
	2018/3	AI技術を用いた医療機器プログラムの製造を行うべく、「 医療機器製造業登録証 」を取得	
	2018/4	テレビを通じて自宅が病室にAI・IoTを活用した在宅医療支援サービス「 Smart Home Medical Care 」を全国の医療機関向けに提供開始	祐愛会織田病院
	2018/10	「 オンライン診療ポケットドクター 」、パソコンでの「ビデオ通話」機能を提供開始	MRT
	2018/11	愛知県での 遠隔服薬指導の実証実験 において「オンライン診療ポケットドクター」が採択	MRT、協和ケミカル、愛知県豊根村
	2018/12	オプティムの医療・介護向けプラットフォームを用いた訪問介護看護サービス向けソリューション「 ほのぼのTV通話システム 」、エヌ・デーソフトウェアより提供を開始	エヌ・デーソフトウェア
	2019/1	「 高度管理医療機器等販売業・貸与業 」の許可を取得	
	2019/2	「 先端医療 × AI・IoT 」領域で業務提携	シスメックス
	2019/3	医療分野における画像診断領域の課題を解決する最新AI関連製品を「 2019国際医用画像総合展 」に出展	
	2019/3	「 第二種医療機器製造販売業 」の許可を取得、医療機器の設計・開発・製造・薬機申請・販売が可能に	
	2019/4	医療画像診断支援AI統合オープンプラットフォーム「 AMIAS 」（アミラス）を提供開始	

これまでの〇〇 × ITの具体的な取り組み

〇〇(業界)	発表時期	内容	提携先
建設	2017/7	建設生産プロセス全体をつなぐ新プラットフォーム「 LANDLOG 」の共同企画・運用を決定	コマツ、NTTドコモ、SAP
電力	2018/10	「 戦略的提携 」AI・IoT等を活用したサービスや、新規事業の検討・開発における継続的な連携・協力	九州電力
警察	2018/10	AI・IoTを活用した地域の 安全安心にまつわる防犯技術 等の研究開発・運用に関する 包括連携協定	佐賀県警察
小売	2018/3	AI店舗管理支援サービス「Smart Retail Management」を活用した「 モノタロウ AIストア 」をオープン	モノタロウ
	2018/12	ネット時代の次世代型ショールーム「蔦屋家電+」に「 OPTiM AI Camera for Retail CE 」を提供	蔦屋家電エンタープライズ
	2019/3	ポップアップストア「PAUL & JOE ACCESSOIRES」に、「 OPTiM AI Camera 」を提供	
金融	2017/12	AI・IoT・ブロックチェーン技術を活用した取り組みを推進すべく、「 金融×IT 戦略的包括提携 」を締結	佐賀銀行
	2018/7	AI監視カメラサービス「AI Physical Security Service」を利用した、振り込め詐欺を防止する「 ATMコーナー監視システム 」を銀行ATMコーナーで実証開始	
運輸	2017/10	AIを用いて異常を検知、JR九州の駅をご利用になるお客様のより高い安全性向上を目的とした「 AI Physical Security Service 」の実証実験を開始	JR九州
	2018/6	JR東日本水戸支社管轄の常磐線 佐和駅にて「 AI Physical Security Service 」の実証実験を実施、実証実験目標の90%を上回り、 96.2%の検知率 を達成	JR東日本

300種類を超える学習済みモデル適用メニューを備えた「OPTiM AI Camera」、 定量データ解析に基づく予測サービス「OPTiM AI Prediction」発表

飲食向けパッケージ

AI Camera for Restaurants

AI使い放題パック 月額 **15,000** 円/カメラ 予定

1. 入店者数カウント	2. 入店者数予測	3. 入店者分析	4. 混雑分析 (レジ前など)	5. 混雑分析 (レジ前など) 予測
6. 混雑検出	7. 侵入検出	8. 店舗内人数把握	9. 店舗内人数分析	10. 店舗内人数予測
11. 店舗前通行者カウント	12. 店舗前通行者数予測	13. 滞在時間分析	14. 長時間滞在検出	15. 動線分析 (ヒートマップ)

...様々なメニューが追加されます！

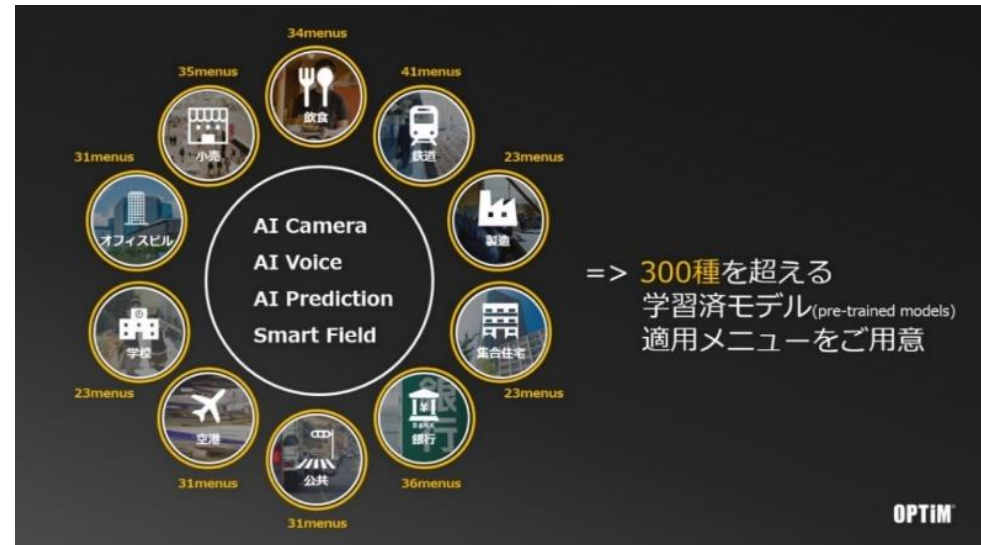
管理機能: ダッシュボード, デバイスマネジメント, エッジコンピューティング・マネジメント, クラウドストレージ (Store)

オプションメニュー 月額 **5,000～15,000** 円/カメラ 予定

空席情報可視化	属性別 (年齢・性別) カウント	部外者検出	煙検出	他16メニュー
---------	------------------	-------	-----	---------

> プロフェッショナルプラン 弊社スペシャリストによる、御社専用のAI開発支援プラン

「OPTiM AI Camera」：店舗や施設など業界別・利用目的別に設置されたさまざまな種類のカメラからデータを収集し、学習済みモデルを活用して画像解析を行うことでマーケティング、セキュリティ、業務効率などの領域を支援するパッケージサービス。

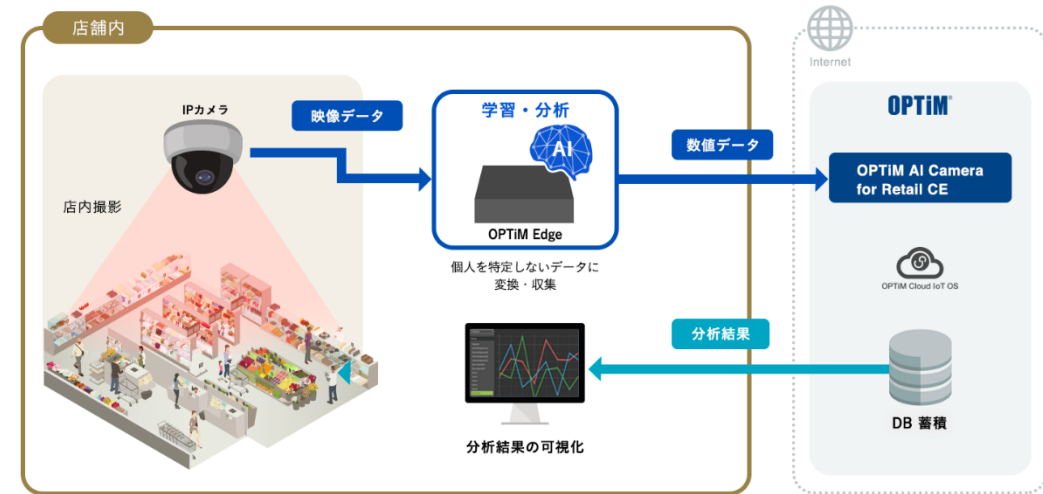


「OPTiM AI Prediction」：FinTech、価格変動予測、市場動向予測、セキュリティモニタリングなどのさまざまなAIデータ解析を実際に運用する場面において、収集されたデータを解析し、将来の動向の予測モデルを提供する定量データ解析サービス。

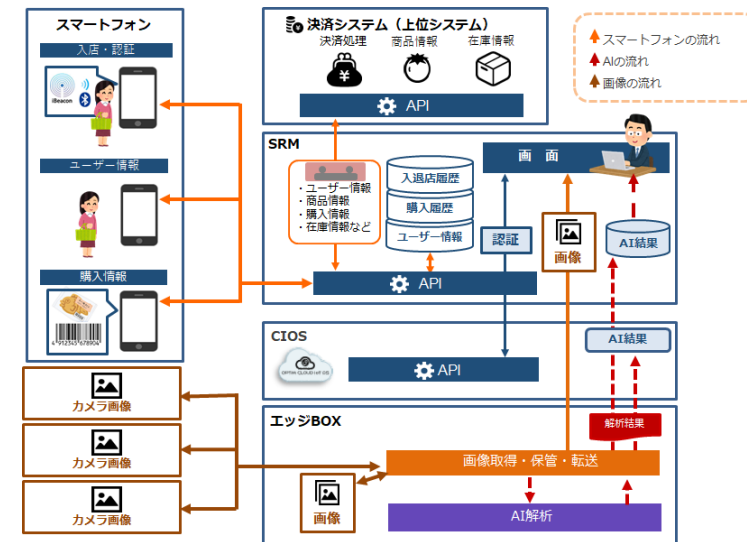


ネット時代の次世代型ショールーム 「蔦屋家電+」に 「OPTiM AI Camera for Retail CE」を提供

AIを活用し店内カメラ映像・タブレットから消費者
の行動分析、マーケティングデータ取得を支援



ポップアップストア「PAUL & JOE ACCESSOIRES」に、 「OPTiM AI Camera」を提供



など他多数

AI・ドローンを使って栽培された残留農薬不検出 あんしん・安全なお米「スマート米」の販売を開始



大分県「ヒノヒカリ」「にこまる」を、佐賀県「さがびより」を、福岡県「ヒノヒカリ」、青森県「まっしぐら」を「スマート米」として栽培し、削減対象農薬※1の使用量について50%～100%減※2を実現

※1農薬のうち、ピンポイント農薬散布によって削減できる殺虫剤および殺菌剤を「削減対象農薬」として定義。

※2削減対象農薬の使用量において、当該地域において例年行われている栽培方法での平均的な農薬使用量もしくは当該地域のJA（農業協同組合）に納品する際に守るべき目安となる農薬使用量の基準値と、ピンポイント農薬散布テクノロジーを用いて散布した農薬の使用量を比較。削減量については、年度や地域で異なる場合があります



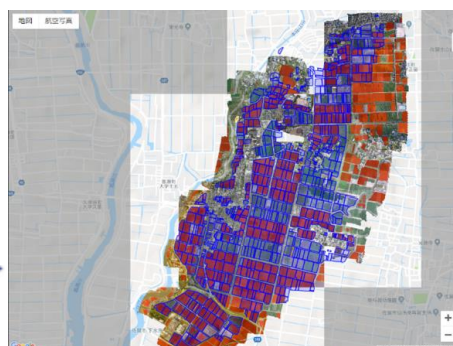
最先端の技術を使ったお米やお野菜を販売するWebサイト
「スマートアグリフーズ直送便（スマ直）」オープン

Amazon、YahooなどのECサイトでの販売を開始

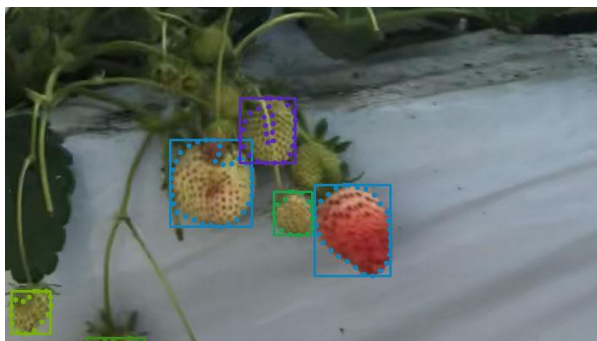
国家プロジェクトへの参画・先端研究（農林水産省との取り組み）

「戦略的プロジェクト研究推進事業」の『ドローン等を活用した農地・作物情報の広域収集・可視化及び利活用技術の開発（広域の農地・作物情報の調査分析に掛かる作業時間が1/2以下になるソフトウェア等の開発）』

「革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）」の国産米競争力化に向けた超省力型水稻栽培技術の確立



「農業界と経済界の連携による先端モデル農業確立実証事業」のAIの画像解析技術を活用した収穫予測と病害虫の検知手法の確立



播種用ドローン

- ・播種ユニットの開発と改良
（4条点播種 時速5km 播種深度0.5cm）
- ・播種時の水田状態のモニタリング技術の開発

2019年度「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」2件の採択（コンソメンバーとして受託予定）

- ✓ 大規模水稻経営における農業ブルドーザとドローンを活用したスマート農業技術体系の実証
- ✓ 多様な人材が集う農業法人経営による全員参加型のスマート農業技術体系（大規模露地野菜複合経営）の実証

農林水産・流通加工・食品産業向け AI・IoT・Robotプラットフォーム「AGRI EARTH」を発表

農業ビッグデータの活用を推進。WAGRIとも連携しAI・IoTによる価値創造を目指す





みちのく銀行と日本初となるスマート農業地域商社 「株式会社オプティムアグリ・みちのく」を設立

OPTiM[®]
AGRI MICHINOKU

株式会社オプティムアグリ・みちのく」設立発表会及び調印



「株式会社オプティムアグリ・みちのく」では生産・販売の両面から青森県の基幹産業である第1次産業の農業を“稼げる農業”にすべく、「スマート農業」を積極的に推進してまいります。

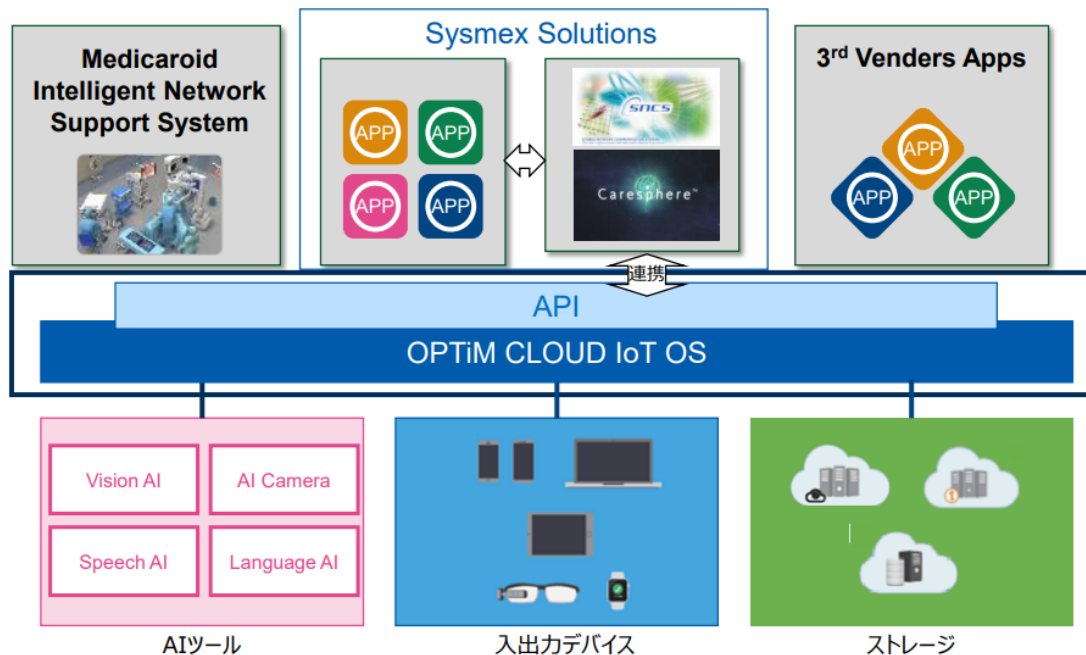
事業内容：

1. オプティムのスマート農業ソリューションを活用し生産者と連携した農作物の生産と販売
2. スマート農業に関する総合商社機能の提供
3. スマート農業に関するコンサルティングサービスの提供
4. その他、青森を中心とした地域の発展・貢献に必要なAI・IoTサービスの提供



シスメックスと「先端医療×AI・IoT」領域で業務提携

～次世代の医療・診断を支えるITソリューション・プラットフォームの開発・展開を加速～



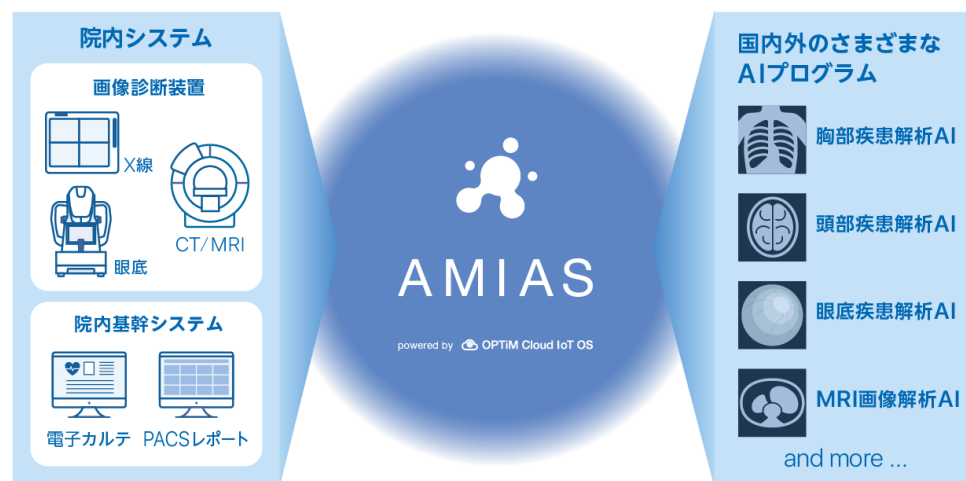
主な取組み例：

- ゲノム情報とAI解析を組み合わせた疾病予測や、検査画像情報とAI解析を組み合わせた新たな診断法の開発
- 遠隔診療や予防医療を支援するネットワークサービスの開発
- 医療機器の遠隔モニタリングや、問い合わせ対応へのAI活用など医療機関の効率化・品質向上を支援するサービスの開発
- 手術室全体の最適化を支援する「手術支援ロボット」向けAI・IoTの開発

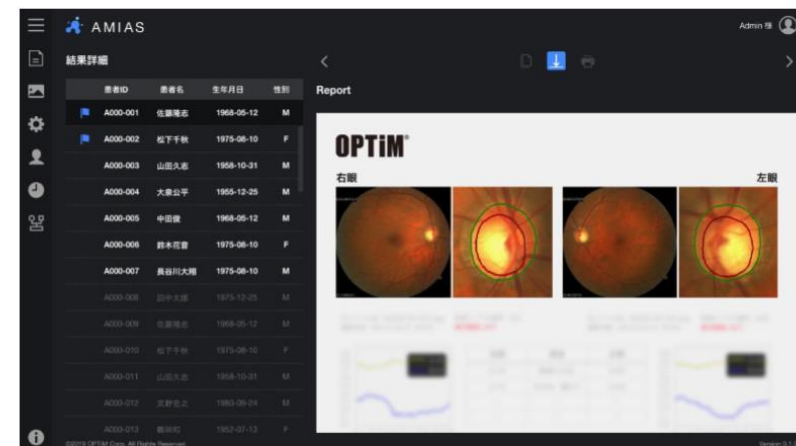
将来的な資本提携の可能性も視野に入れた、最適な協業体制についても検討予定

医療画像診断支援AI統合オープンプラットフォーム 「AMIAS」（アミアス）を提供開始

オプティムを含め国内外のAIプログラムメーカーが開発した、さまざまな医療画像診断支援AIプログラムと、PACS（医療用画像管理システム）・モダリティ（CTやMRI等）などの院内システムを連携して利用することが可能



■解析結果表示

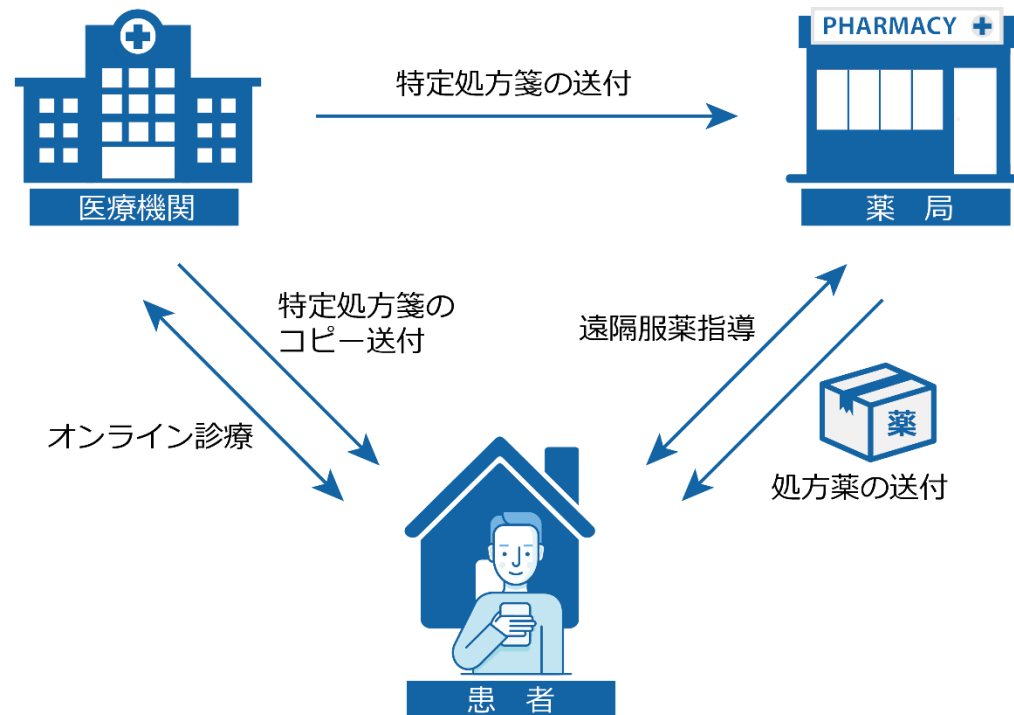


■「AMIAS」パートナー





愛知県での遠隔服薬指導の実証実験において 「オンライン診療ポケットドクター」が採択



患者は自宅に居ながら医師による診療と薬剤師による服薬指導を一括して受けることができ、さらに処方薬も自宅へ配送される。

4月26日発表のコマツ中期計画において 成長戦略の柱として「LANDLOG」を位置づけ



【成長戦略3本柱と重点活動】

①イノベーションによる価値創造

品質と信頼性を追求するコマツのものづくりの技術をベースに、コマツグループ内で得られない技術は積極的に取り入れることで、安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場を創造するためのイノベーションを起こしていきます。

建設現場向けには、デジタルトランスフォーメーションに対応した、**オープンプラットフォーム「LANDLOG」**、自律、協調など高度化したICT建機、生産技術を活用し施工を最適化する施工シミュレーションの開発を強化し速やかに市場拡大を図り、「スマートコンストラクション」をグローバルに推進していきます。

～中略～

②事業改革による成長戦略

③成長のための構造改革

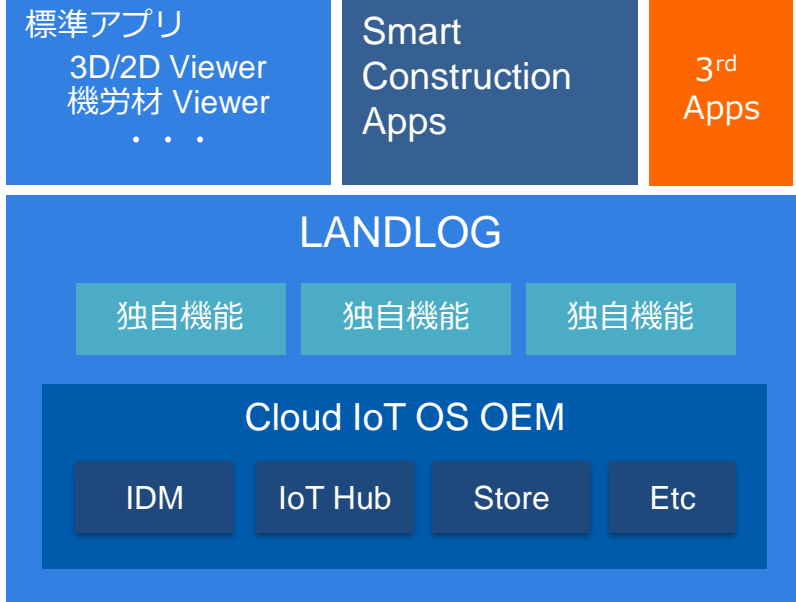
出展：プレスリリース「新たな中期経営計画（2019-2021年度）「DANTOTSU Value – FORWARD Together for Sustainable Growth」をスタート」より抜粋
https://home.komatsu/jp/press/2019/management/1202302_1600.html



IoTを用いて建設生産プロセスの変革を加速させる オープンプラットフォーム 「LANDLOG」

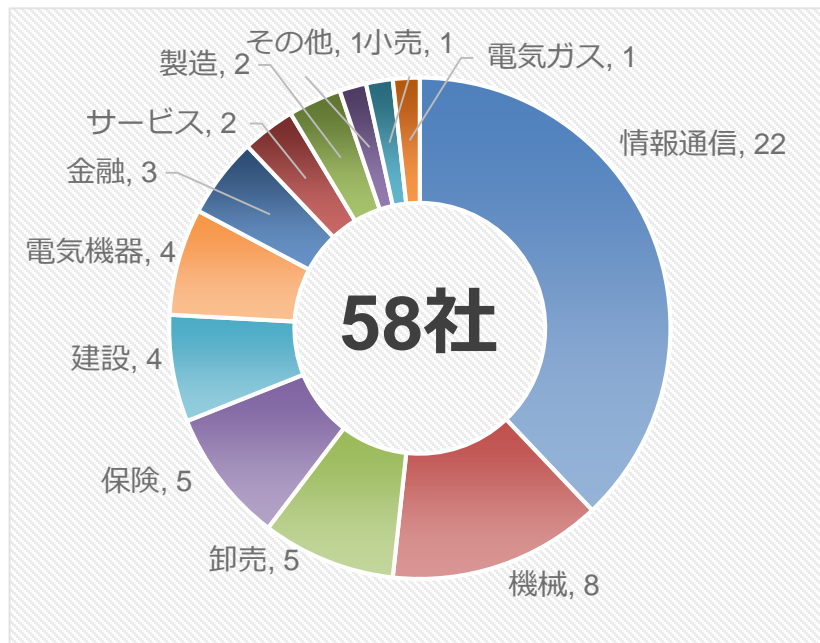


Cloud IoT OSをベースに開発

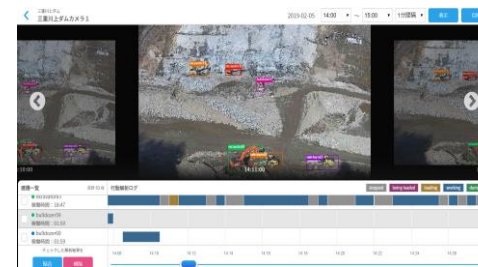


LANDLOGパートナー数は58社まで拡大 各社によるアプリケーション・サービス開発が多数進行中

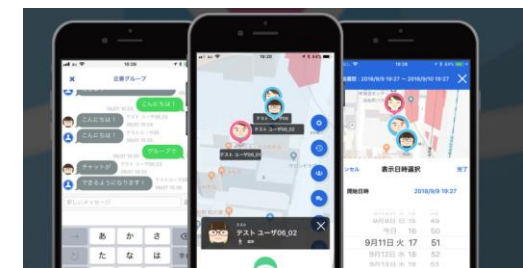
【パートナー数】



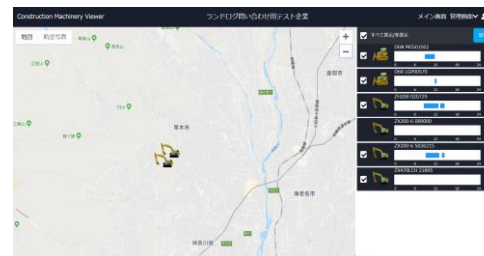
【アプリ】



GembaCam
現場を見える化



PosiCom
現場のメンバーで位置情報共有



建機稼働Viewer
建機稼働の見える化



Building MORE
現場の状況を見える化

Etc...

電力×IT



AI・IoT等を活用した新サービスや
新規事業の開発等で提携
戦略的提携締結

金融×IT



AI・IoTを活用した銀行内外の犯罪
抑止に関する活動
戦略的包括提携締結

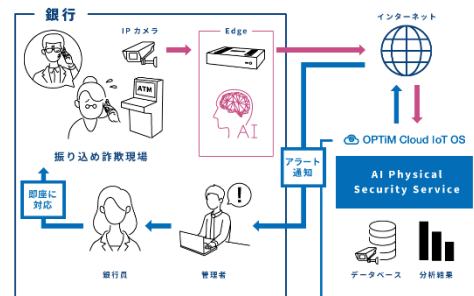
警察×IT



防犯技術等の 包括連携協定締結

AI・IoTを活用した地域の安全安心にま
つわる防犯技術等の研究開発・運用に
関する包括連携協定

AIを用いたモンタージュ画像とカメラ画像
の顔認証技術イメージ



振り込み詐欺を防止する「ATMコーナー監
視システム」を佐賀銀行ATMコーナーで実
証実験中



既存サービス

ミック経済研究所発刊の調査レポートにおいて、
2017年度国内EMM市場でシェアNo.1※を獲得



※出典：ミック経済研究所 2018年9月発刊、「コラボレーション・モバイル管理 パッケージソフトの市場展望 2018年度版」より。

富士キメラ発刊の調査レポートにおいて、
3年連続国内MDM・EMM市場でシェアNo.1※を獲得

ID数34.3%（+3.3%）、出荷総額37.0%（+7.5%）を達成



※出典：富士キメラ総研 2016年11月発刊、「2016 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧（上巻）」、2017年9月発刊、「2017 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧（上巻）」、2018年10月発刊、「2018 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧（上巻）」より。

テクノ・システム・リサーチ発刊の
2018年の「モバイル管理市場」で、
10部門中8部門でシェアNo.1※を達成



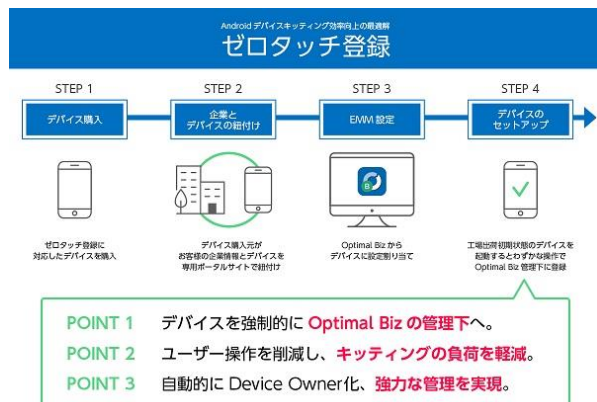
 Optimal Biz

2018-2019年版
エンドポイント管理市場のマーケティング分析

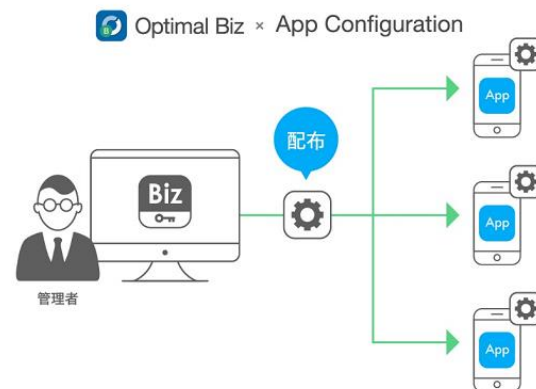
2018年モバイル管理市場
No.1 を獲得

※出典：テクノ・システム・リサーチ、2019年2月発刊、「2018-2019年版 エンドポイント管理市場のマーケティング分析」、2018年「メーカーシェア 売上金額」、「メーカーシェア 出荷ライセンス数」、「提供方式別シェア - SaaS」、「ユーザー規模別シェア - 99人以下」、「ユーザー規模別シェア - 100~999人」、「ユーザー規模別シェア - 1,000~9,999人」、「ユーザー規模別シェア - 1万人以上」、「プロダクト/OEM別シェア OEM」実績値。

Googleが提供する「ゼロタッチ登録」機能に対応し、Android端末のキッティング効率が大幅に向上



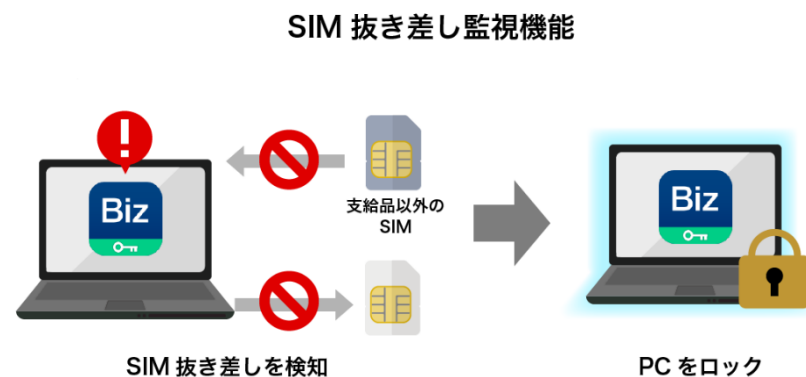
ビジネスコミュニケーションツール「LINE WORKS」と連携可能に



指定した時間や場所に応じて端末設定を変更する機能「Zone Management」、Windowsのアプリケーション禁止に対応



国内で初めてWindows端末での「SIM抜き差し監視機能」を提供



JICAが行う、「開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」に、 遠隔作業支援サービス「Optimal Second Sight」が採択



対象国	インドネシア国
事業名	遠隔作業支援サービス普及促進事業
事業概要	インドネシア・ゴロンタロ州ボアレモ県農業局を対象に、現地での「Optimal Second Sight」の設置・導入によるデモンストレーションやワークショップ開催、本邦での農業xITを含めた現場視察等を通じて、遠隔作業支援サービス技術の理解促進を図り導入を目指すもの。

エプソンアメリカが設立したソリューションプロバイダープログラム、 「MOVERIO Solution Provider」に日本企業として初参加



シーズ・ファクトリーと業務提携
高級時計バイヤーズガイド「POWER
Watch」などを提供開始



旅行情報誌「じゃらん」の提供開始
“旬”で“お得”な宿やレジャー情報などのお
出かけ情報が満載



店舗向け雑誌読み放題サービス
「DoMAGAZINE」の提供開始
1歩先行く“おもてなし”と“お店づくり”
の実現へ



日本唯一の週刊デジタル情報誌
「週刊アスキー」をはじめ、16誌を提供を開始



KADOKAWA より
週刊アスキー ほか
計16誌を追加
人気雑誌 900 誌以上読み放題 **タブホ**

TOKAIコミュニケーションズが提供するモバイルサービス
「LIBMO」にて提供開始

今どき雑誌は「スマホ」「タブレット」で読み放題



LIBMO
×
タブホ
国内最大級の
雑誌読み放題
サービス



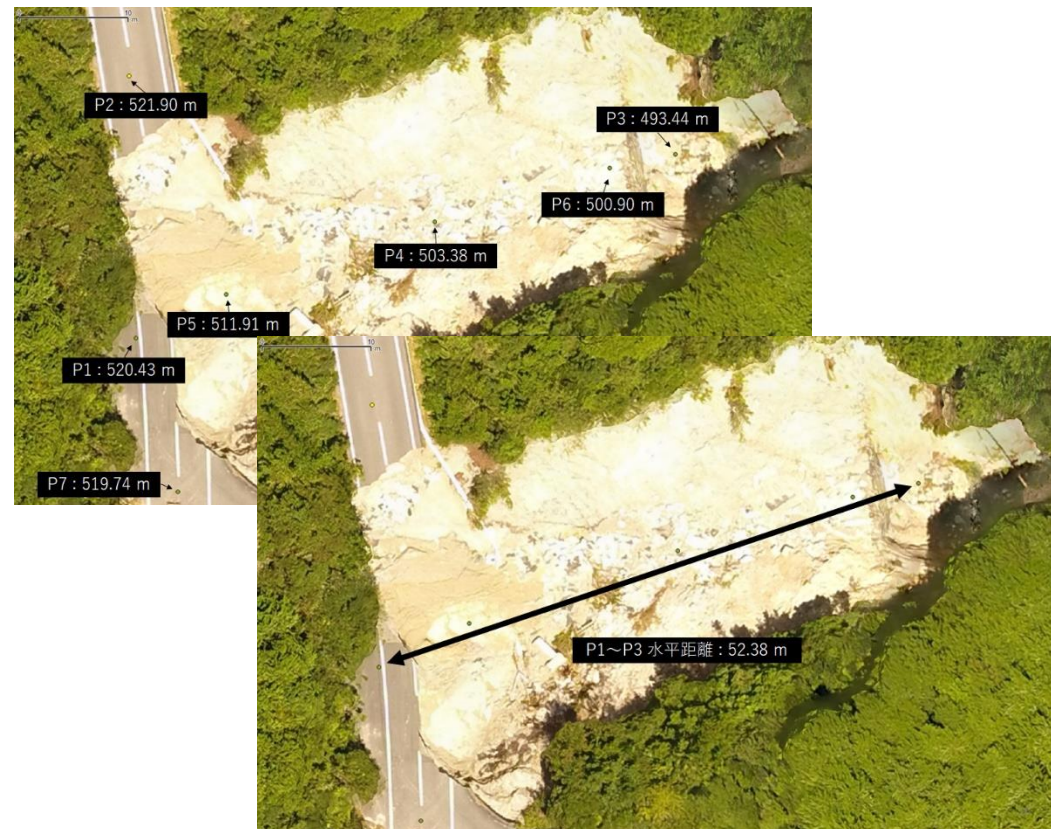
その他

「平成30年7月豪雨」の災害支援として、
「健康相談ポケットドクター」を利用した
医師のオンライン健康相談を無償で実施



オプティム、ランドログ、コマツ「平成30年7月豪雨」の災害支援として、被災状況の把握を目的としたドローン測量を無償で実施

コマツの「EverydayDrone」と
オプティムの「DRONE CONNECT」を活用





2020年3月期（第20期）業績予想



第4次産業革命の中心的な企業を目指して



〇〇×IT戦略に対する投資継続

前期までは順調に進捗
更なるAI・IoT・Roboticsの技術獲得
及び売上計上に向けた取組を推進する

AI・IoT・Robotics分野への積極投資を継続し、本格的な売上計上、及び、利益回収を以下年表に基づき実現していく。（年数は、年度表示）

研究開発投資推移イメージ

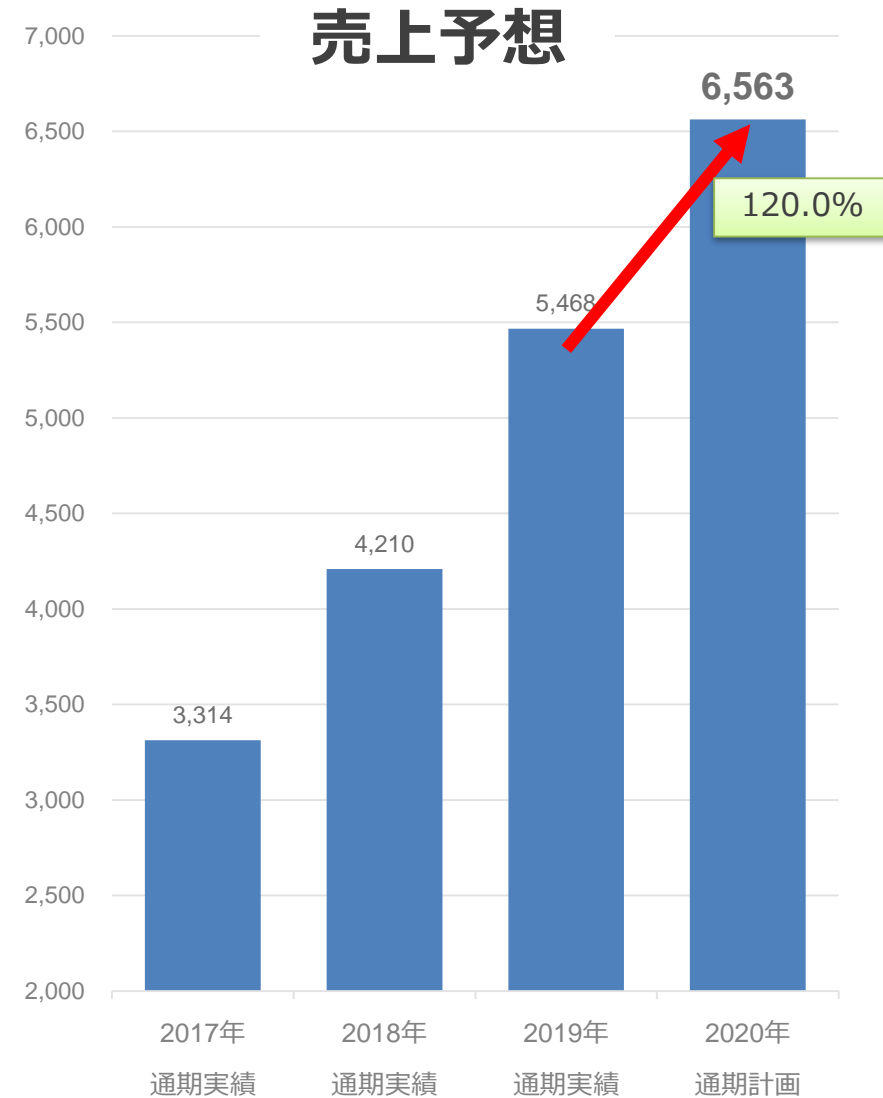




2020年3月期の業績は、
創業来**20期連続**となる
過去最高売上高を目指します。

既存サービスの安定した成長と新規サービスを
保守的に見積もることで、売上65.6億円
（前年比売上高120.0%）は達成可能な見通し

前年比
(単位：百万円)





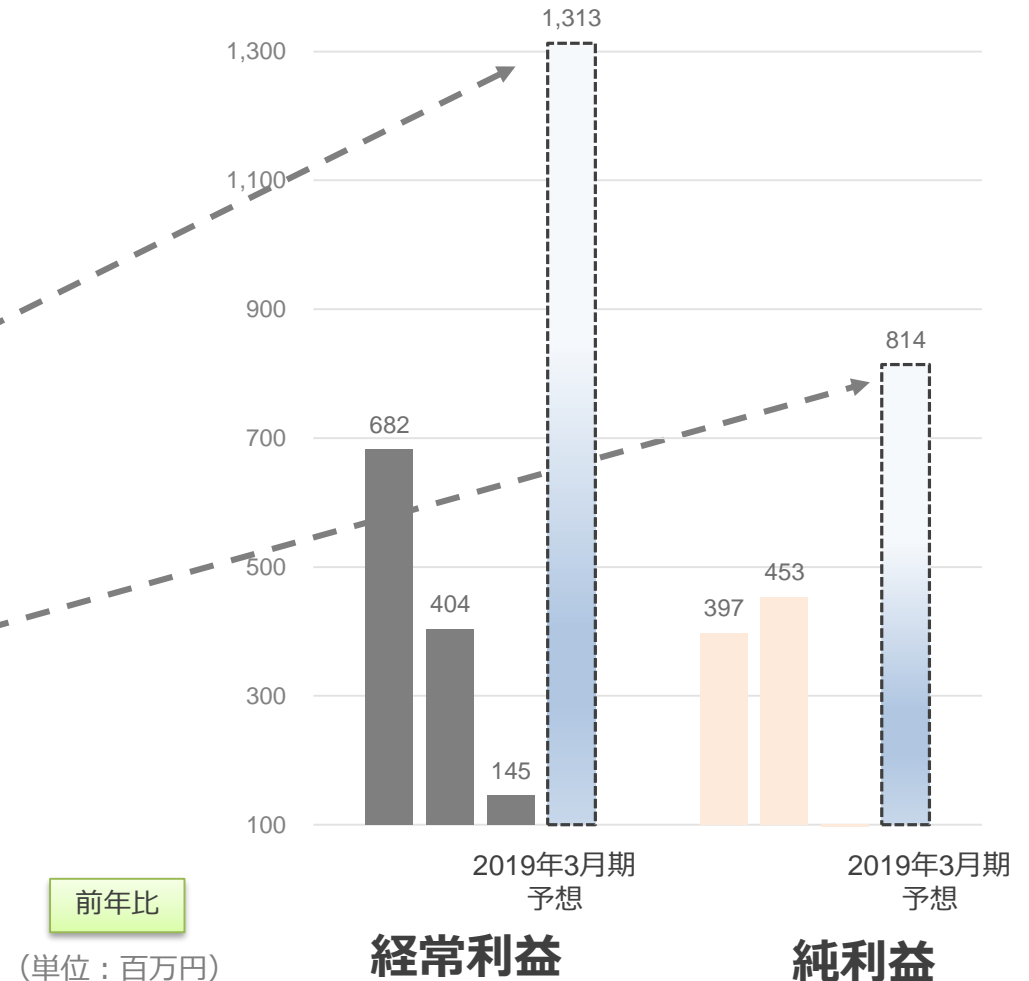
第4次産業革命の中心的企業になるべく
AI・IoT・Robotics分野に
柔軟かつ積極的な投資を行います

そのため今期も前期に引き続き、
レンジ形式による経常利益・純利益
予想を採用します

2020年3月期
経常利益13.13億円~100万円
純利益8.14億円~0万円
の範囲で計画

利益がマイナスにならない範囲にお
いて、研究開発への積極投資を実施
進捗が分かり次第速やかに開示

過去3カ年実績利益推移、
及び、2020年3月期予想





- 2020年3月期の業績は、創業来20期連続となる過去最高売上高を目指します。既存サービスの安定した成長と新規サービスを保守的に見積もることで、売上65.6億円（前年比売上高120.0%）は達成可能な見通しです。
- 当社が展開する市場は堅調に拡大を続けており、その市場のなかでの当社の位置づけも優位な状況であることは変わっておりません。来期においても例年通りの成長投資をかけることを前提とすると、**既存サービス及び「OPTiM Cloud IoT OS」とその関連サービスの売上を保守的に見積もることで売上は、前期比で20%程度の成長率、営業利益・経常利益については、対売上比で20%程度はそれぞれ見積もることが出来る状況となっております。**
- ここ数年「第4次産業革命」において中心的な役割を果たす企業となるべくAI・IoT・Robotics分野に積極的な投資を行ってまいりましたが、**2020年3月期においても、2019年3月期同様、最大、経常利益がマイナスにならない範囲において、研究開発への積極投資を実施し、成果を掴みつつあるOPTiM Cloud IoT OSでデファクトスタンダードを獲得するための、仕上げに向けた1年としていきたいと考えております。具体的には、ここ数年取り組んでまいりました、各業界・産業とITを融合させる「〇〇×IT」によりITの力で業界・産業基盤を再構築する取り組みを引き続き推進してまいります。**
- 売上、利益ともに新規サービスの受注により拡大の可能性を残しております。なお、計画値と乖離が生じた場合には、速やかに開示します。

OPTiM

www.optim.co.jp